

田舎暮らしを楽しむ

(9)

佐藤 彰啓



現地に行って自分の目でじっくりと様子を確認してみる

田舎の物件ほど「百聞は一見にしかず」ということわざが当てはまることはない。どんな土地であらうかと、胸をわくわくさせながら現地へ出かけてみると、がっかりすることもあれば、期待以上にすばらしいこともある。田舎の物件はそれほど個人的であり、見てみないとわからない。

都会の物件と違うのは、遠隔地であり、いつでも、何回も見られるというわけにはいかない。帰宅してから「あれはどうなっていたかな？」と確認するのも容易ではない。また自分は気に入

見学は地図・カメラ持参で

土地探し(3)

つても、見学に行かなかった家族に十分説明できないと「何をそんなに舞い上がっているの」と言われかねない。

物件見学に出かける際には、次のような道具や服装を準備するとよい。

▼**地図** 地図で所在地を確認してみよう。最寄り駅や小学校、郵便局などの位置もわかる。生活情報を得るには、十万分の一以上の道路地図では不十分。三万分の一程度の「県別マップ」が便利であ

る。役場などで広報資料や案内パンフレットを入手すると、その町の産業や人口、社会福祉施設なども知ることができる。

▼**カメラ** 帰宅後に物件を確認するための必需品。土地の全景、道路の状況、敷地からの眺めなどのほかに、そこから数百離れた周辺環境のわかる写真も撮っておくとよい。最寄り駅やバス停の時刻表、町並みや諸施設なども写しておくとな参考になる。

▼**コンパス** 晴天の日は太陽の位置でおおよその方向が分かるが、雨天や曇天の場合は分からないので、コンパスで確かめる。

▼**服装** 見学では林や草むらに入ることもある。ハイキングに行くときのようなスタイルが望ましい。車で出かける場合は、長靴なども積んでおくとうい。軍手や帽子、雨具などもお忘れなく。

見学を終え、自分の田舎暮らしのイメージに合うかどうかを検討する。その繰り返しにより、物件を見る眼が養われてくるのである。

(ふるさと情報館代表)